

2026年1月28日

報道関係者各位

テクマトリックス株式会社
(東証プライム /証券コード : 3762)

MCP サーバー搭載！強化された AI 機能で API テストを自動化する 「SOAtest/Virtualize 2025.3」の販売を開始

最新の AI を活用したテストからレガシーな TCP/UDP ソケット通信のテストまで、幅広く自動化

テクマトリックス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：矢井隆晴、以下「テクマトリックス」）は、米国 Parasoft Corporation（本社：米国カリフォルニア州、最高経営責任者：Elizabeth Kolawa、以下「Parasoft 社」）が開発した API テストの自動化とサービス仮想化を 1 ツールで実現する「SOAtest/Virtualize 2025.3」の販売を 2026 年 1 月 28 日より開始します。

近年、システム同士のデータ連携に API を使う場面が増え、安定して動かすために API の品質を保つことがますます重要になっています。AI を活用したアプリ開発や、定期的なセキュリティパッチ適用・バージョンアップにともなう回帰テストや無影響確認テストでは、REST API だけでなく、MQ、JMS、TCP、UDP、SFTP といった昔から使われているプロトコルも含めてメッセージを送受信するテストを自動化する必要があります（以降、これらのプロトコルを活用し、メッセージを送受信するものを API と定義します）。そのためには、専用のテストツールが不可欠です。

SOAtest/Virtualize は、システム間連携に欠かせない API の「作る側」と「使う側」の両方を支援し、テストの自動化とテスト環境の仮想化（サービス仮想化）の 2 つの面から開発効率を高めます。API の開発者向けには、API が正しく動くかを確認するために、テストクライアントを自動生成し、単機能テストや結合テスト（シナリオテスト）を自動で実行します。API を利用するアプリの開発者向けには、連携で使う API を仮想化（高機能なモックサーバー／スタブを自動生成）して、疑似データを提供します。これにより、必要なときに何度もテストできる環境を用意し、アプリが取得データを使って正しく動作するかを確かめられます。

このたび販売を開始した SOAtest/Virtualize 2025.3 では、AI 機能が大幅に強化され、MCP サーバーが新たに搭載されました。これにより、自然言語で指示するだけで任意の AI エージェントから SOAtest を呼び出して API テストを実行し、結果を確認できます。また、AI を活用したアプリ開発で課題となる「AI の出力内容が毎回変わる」問題に対しては、文脈や内容を自然言語で検証できる AI Assertor 機能を追加しました。さらに、MCP サーバーの開発を自動テストできるようにする MCP Client や、MCP サーバーのデータを使うアプリのテストに必要な疑似データを提供する MCP Listener も搭載し、モダンな開発におけるテスト自動化を強力に支援します。加えて、チャット形式でテスト資産を生成する AI アシスタントも進化し、自然言語からスタブの生成をおこなえるようになりました。

AI を活用した最新のテスト強化にとどまらず、レガシーや組み込みシステムにおける TCP/UDP ソケット通信のテストも強化されました。送受信電文の 16 進数設定は、より簡単にできるようになりました。また、16 進数の TCP ソケット電文を記録した PCAP ファイルから、テストクライアントやスタブを自動生成する機能も強化されました。

従来は独自ツールの開発や手作業に頼っていた領域のテストを自動化し、作業効率の向上に貢献します。

テクマトリックスは、Parasoft 社製品の国内総販売代理店として、システム間のデータ連携に欠かせない API の開発と API を使用するアプリケーションの開発に携わるすべてのお客様の課題解決に最適なツールとして、SOAtest/Virtualize の販売、マーケティング、ユーザーサポートなどの活動を強化してまいります。

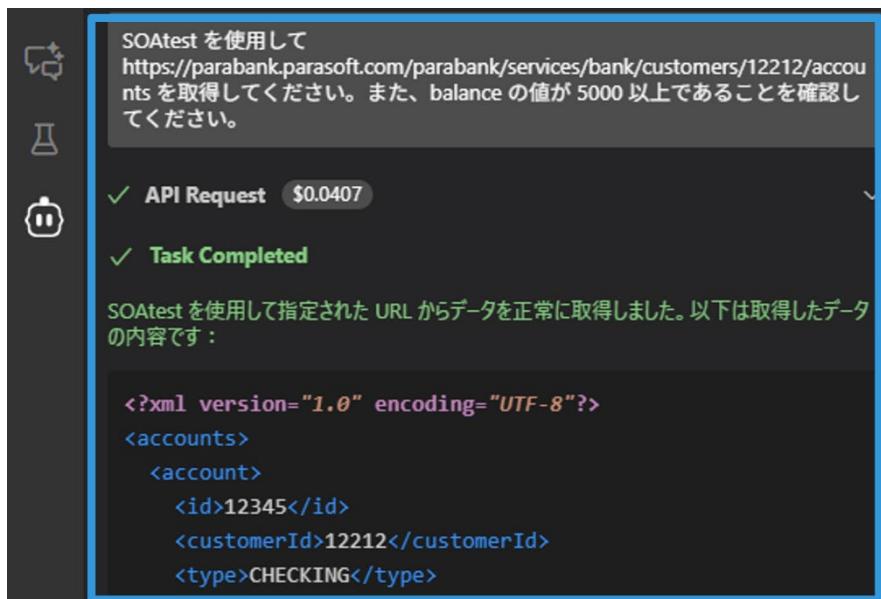
【SOAtest/Virtualize 2025.3 のおもな新機能・改善点】

● LLM 連携機能の強化

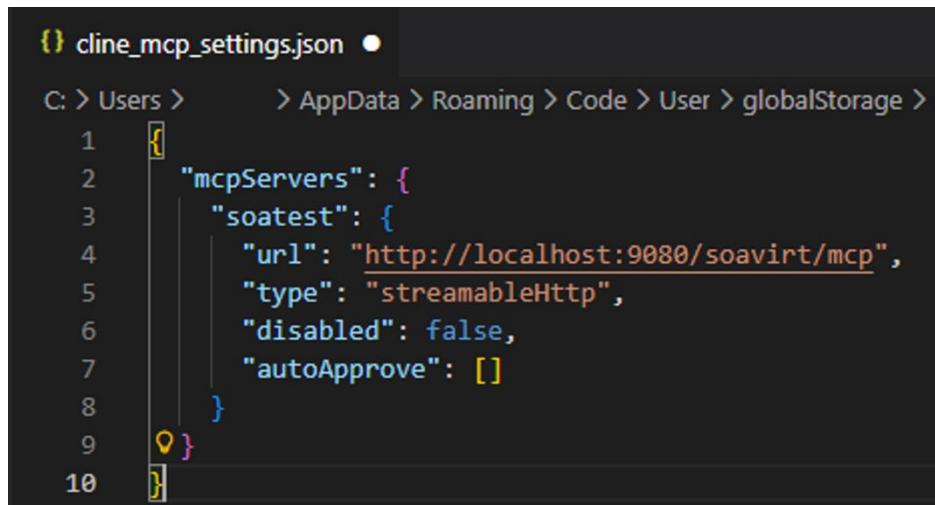
・ MCP サーバーを搭載：任意の AI エージェントで API テストを実行

自然言語で指示するだけで任意の AI エージェントから SOAtest を呼び出して API テストを実行し、結果を確認できるようになりました。あらかじめ SOAtest のテスト資産を作つておく必要がなく、自然言語の指示に沿つた API テストを実行できるため、素早く検証ができます。

【Visual Studio Code で SOAtest を実行する例】



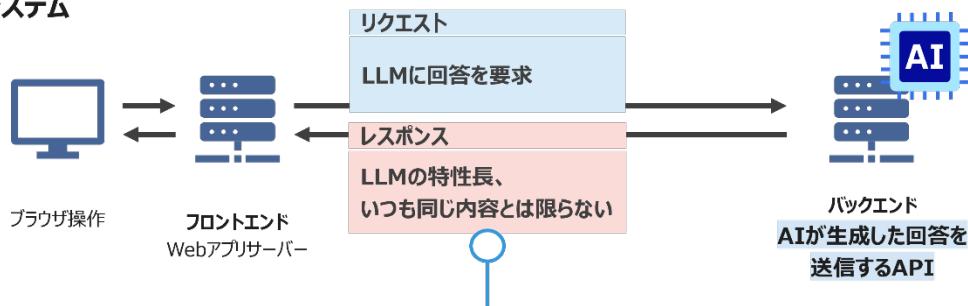
【Visual Studio Code に SOAtest の MCP サーバーを登録する例】

A screenshot of a JSON configuration file named 'cline_mcp_settings.json' in Visual Studio Code. The file contains settings for an MCP server named 'soatest'. The 'mcpServers' section includes the URL 'http://localhost:9080/soavirt/mcp', type 'streamableHttp', and a disabled status. The file is located in the 'globalStorage' folder of the SOAtest extension.

- AIを活用したアプリ開発：AIが生成する内容を検証

Web アプリケーションに AI を組み込む開発が加速する一方、AI を活用したアプリ開発には「AI の出力内容が毎回変わる」という課題があります。そのため、文字列の完全一致による検証では適切な品質チェックがおこなえなくなりました。そこで SOAtest/Virtualize は、文脈や内容を自然言語で検証できる AI Assertor 機能を追加しました。この機能により、AI を実装したモダンな開発におけるテスト自動化を力強く支援します。

■ システム



自然言語で意味合いを検証する AI Assertor 機能を提供

LLMの性質上、AIが生成する回答がいつも同じ内容とは限らない。
全く同じ文字列にならないが、趣旨が期待通りのものであるかを自然言語で検証。

- AIを活用したアプリ開発：MCP サーバーや MCP サーバーを利用するアプリをテスト

MCP サーバー自体の開発や、MCP サーバーを既存のアプリケーションに連携させる拡張開発も加速する傾向にあります。MCP サーバーの開発については、MCP サーバー自体の挙動の検証を自動化する MCP Client 機能に加え、MCP サーバーと連携するアプリをテストするために、MCP サーバーに成り代わる MCP Listener 機能も搭載されました。

- AIアシスタントがチャット形式でスタブを生成

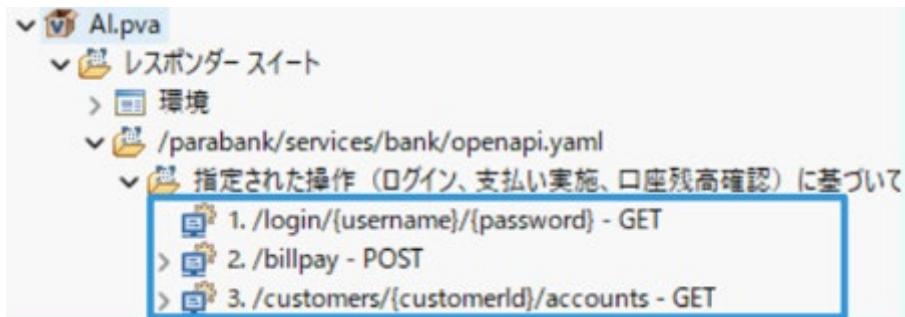
チャット形式でテスト資産を生成する AI アシスタントも進化し、自然言語でスタブを生成できるようになりました。なお、テストドライバーの生成は、前バージョンから対応しています。

【チャット形式でスタブを生成するプロンプトの例】



はい

【自動生成されたスタブの例】



- レガシーシステム、IoT・組み込み系システムへの対応を大幅に強化

- 16進数設定を簡易化

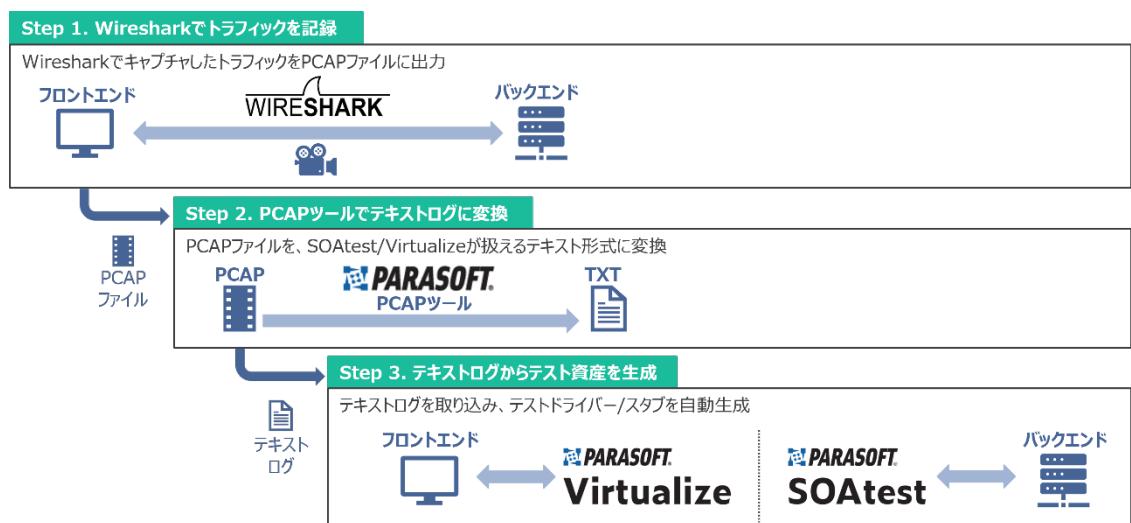
16進数の電文でTCPとUDPソケット通信をおこなうための設定がシンプルになり、おもな4種類の電文の送受信をより簡単に設定できるようになりました。接尾値の設定も可能です。

【おもなTCP/UDPソケット電文形式の例】



- TCPソケット通信で送受信する電文の記録とテスト資産の自動生成に対応

TCPソケット通信を記録したPCAPファイルから、テストドライバーやスタブの自動生成に用いるための16進数電文の生成オプションが強化されました。PCAPファイルの内容を基に、16進数電文を用いたテスト資産の作成効率が飛躍的に向上します。



【SOAtest/Virtualize の稼動環境】

- Windows 64bit
Windows 11、Windows Server 2022、Windows Server 2025
- Linux 64bit
GTK+ 3.20 以降
- macOS 64bit
macOS 12 (Monterey) 以降

製品の詳細は Web ページをご確認ください。

URL : https://www.techmatrix.co.jp/product/soatest_virtualize/

【SOAtest/Virtualize の販売開始日】

- 販売開始日 : 2026 年 1 月 28 日
- 出荷開始日 : 2026 年 1 月 28 日

2026 年 1 月 28 日において、保守サービスをご契約いただいている SOAtest/Virtualize のユーザー様には、「SOAtest/Virtualize 2025.3」バージョンアップ製品を無償でご提供します。

■テクマトリックス株式会社について

テクマトリックス（東証プライム：3762）は、お客様のニーズに沿った最適な IT インフラと IT ライフサイクルをワンストップで提供する「情報基盤事業」、蓄積された業務ノウハウを実装したアプリケーションの提供により顧客の課題解決を実現する「アプリケーション・サービス事業」、「医療情報をみんなの手に。そして、未来へ。」をテーマに健康な社会を支える医療情報インフラの構築に取り組む「医療システム事業」の 3 事業を展開し、顧客企業のビジネスモデル変革と競争力の強化をサポートしています。

詳細は Web サイト: <https://www.techmatrix.co.jp/> をご参照ください。

■Parasoft Corporation について

Parasoft 社は、30 年以上にわたり、ソフトウェアのバグがアプリケーションに混入する原因と仕組みを研究し、数々のソリューションを提供してきました。Parasoft 社のソリューションは、ソフトウェア開発ライフサイクルにおける継続可能なプロセスとして、品質改善活動を支援し、頑強なソースコードの実装、無駄がなく機能性の高いシステムの構築、安定したビジネスプロセスの実現を可能とします。数々の賞を受賞した Parasoft 社製品は、長年の研究成果と経験から得られたノウハウを自動化し、エンタープライズシステムから組み込みソフトウェアまで、どのようなタイプのソフトウェア開発においても、生産性向上と品質改善を実現します。Parasoft 社のコンサルティングサービスは、ツールでは解決できない問題の解決や開発プロセスの改善など、Parasoft 社の 30 年以上の経験を直接お客様に提供し、お客様の改善活動を支援します。

詳細は Web サイト : <https://www.parasoft.com/> をご参照ください。

＜本件に関するお問い合わせ先＞
テクマトリックス株式会社
ソフトウェアエンジニアリング事業部 SOAtest/Virtualize 担当
E-mail : parasoft-info@techmatrix.co.jp
TEL : 03-4405-7853

*本原稿に記載されている社名及び製品名等は、各社の商標または登録商標です。